

2011 年度

『地域貢献事業報告書』

Web 版

愛知大学

地域政策学部

<http://regional-policy.aichi-u.ac.jp/>

<目 次>

- 学部長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 地域貢献事業年間スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 各グループ活動内容紹介
 - (1)「愛知大学たすけあい部」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
 - 事業報告書、活動発表資料
 - 指導教員所感 西堀喜久夫、今里佳奈子
 - (2)「豊橋まちなか再生倶楽部 Team BRIDGE」・・・・・・・・・・・・11
 - 事業報告書、活動発表資料
 - 指導教員所感 中崎温子
 - (3)「ふれあいクラブ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
 - 事業報告書、活動発表資料
 - 指導教員所感 駒木伸比古
 - (4)「ええじゃないか豊橋愛大キャラバン」・・・・・・・・・・・・22
 - 事業報告書、活動発表資料
 - 指導教員所感 尼崎光洋
- あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
- 活動関連新聞記事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

地域貢献力のさらなる深化を目指して

地域政策学部長 渡辺和敏

愛知大学に地域政策学部が誕生して、やがて一年を迎えようとしている。この一年間に何度も聞かされたかも知れないが、地域政策学部の基本的理念は「地域を見つめ、地域を生かす」である。この「地域を見つめ、地域を生かす」を別の言い方で示せば、学生が実際に地域社会に出てさまざまな問題を見付け、その問題を解決する方策を考え出し、地域を再生・創造してゆく言わば「地域貢献力」を有する人材のことである。

地域政策学部の教員は常々、どのようにしたら学生に「地域貢献力」がつくのか、実際に「地域貢献力」を発揮することができるのか、ということをも皆で模索している。その中で出てきた一つの案が、本学部の学生に対し、教授会が主催して「学生による地域貢献活動」を募集してみようということであった。「地域貢献活動」にはいろいろな形態があるが、今回は学生のグループによる計画的な活動とし、その活動に一定の経済的支援を行う、経済的支援を伴うものであるから採択件数を限定せざるを得ない、ということになった。

この立案に異論を唱える教員はいなかったが、これによって学生による積極的な地域貢献活動展開の動機付けとしてどれだけの効果があるのか、何よりもこの募集に対してどれだけの人数の学生が応募してくるのか、というようなことを心配をする教員もいたことは事実である。実は、私自身も応募者は少ないであろうと心配した一人であるが、現時点での本学部の学生気質を推し量る一つの指針にはなるであろうとも思った。

昨年5月11日の昼休み、「学生による地域貢献活動」募集の説明会場である633教室に入って見て驚いた。私の予想をはるかに超え、説明会に集った学生は70数名に達し、教員による説明を一生懸命に聴き入り、活発に質問をする学生もいた。従来の愛知大学の一般的な学生に対する評価は積極性に欠けると言われているが、それとは異なり地域政策学部独特の学生気質を感じ取った説明会であった。それから後、私はさまざまな機会に、この説明会での私の驚きと感激ぶりを語り、また文章で紹介している。

「学生による地域貢献活動」の募集には、その後いくつかのグループから応募があり、夏休み直前にほとんどの教員も参加して公開の発表会が実施された。その結果、四グループの提案が採択され、それぞれのグループに必要な経費の一部支給を約束した。「地域貢献活動」は夏休みからその後の半年余りを通じ、地域の人々のご好意や有志教員の指導の基に実施された。そして本年1月28日、愛知大学教職員一般・豊橋市関係者・報道機関にも公開して、その活動結果の報告会が本館5階第3・4会議室を会場にして実施された。

この立案を成功に導いた大きな要因は学生による積極的な参加と活動である。しかし今回の「活動」だけに留まらず、これを基礎にして地域貢献力のさらなる深化を目指してもらいたい。また今回参加を見合わせた学生には、次回以降に是非とも参加を検討してもらいたい。「学生による地域貢献活動」の募集は、来年度以降も実施する予定である。

2011年度 地域貢献事業年間スケジュール

日 程	内 容	場 所
5月11日（水）	学生地域貢献事業「説明会」	6号館 633教室
6月 1日（水）	学生地域貢献事業「何でも相談会」	2号館 234教室
7月21日（木）	学生地域貢献事業「企画報告会」	6号館 633教室
7月29日（金）	学生地域貢献事業「活動費授与式」	6号館 633教室
7月29日（金）～	学生地域貢献事業実施	—
1月28日（土）	学生地域貢献事業「報告会」	本館5階 第3・4会議室
3月末	2011年度 学生地域貢献事業報告書発刊	—

2011 年度 地域貢献事業報告書

グループ名 「愛知大学 たすけあい部」
地域貢献事業名 「つながろう愛知プロジェクト」
<p>○グループ代表者 (氏名) 角田 紗貴 (学籍番号) 11R5225</p> <p>○グループ副代表者 (氏名) 加治 志穂 (学籍番号) 11R5037</p> <p>○呼びかけ人一覧</p> <p>11R5223 榊原 春香 11R5075 小笠原 侑美 11R5105 黒木 智恵 11R5032 柴田 あかね</p> <p>11R5077 田嶋 順子 11R5010 谷澤 克行 11R5089 石原 綾乃 11R5141 加藤 園望</p> <p>11R5211 大河内 雅人 11R5099 神谷 智佐 11R5158 石田 真侑 11R5130 渡辺 真唯</p> <p>11R5061 佐藤 康崎 11R5267 鬼頭 宏旭</p>
<p>事業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の被災者の支援 ・ 被災していない方に被災者の現状を知ってもらう。
<p>事業の内容 (誰が誰と何をどうするのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 愛知県内で避難生活をしている被災者の要望調査 ・ チャリティ・ショップを開き義援金を募り、豊橋市民に被災者に向けてメッセージを書いてもらう。 (メッセージを貼り付けたボードの作成) ・ 交流会を開き、避難者同士で交流を深めてもらう。 ・ 要望調査の結果を役所などに公開することで理解を深めてもらう。 ・ 各団体や自治体が開催する説明会や交流会に参加し知識を深める。
<p>事業の動機 (なぜ取り組むのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 被災した方々に何か支援をしたいと考えたため。 ・ 活動を通して学んだことが社会に出て仕事をしたときに役立つと思ったため。
<p>事業の目標 (何を達成したいか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難生活の改善 (故郷を離れて暮らす被災者の方々が少しでも暮らしやすくなるように応援する。) ・ 被災していない方に、東海地震への関心を深めてもらう。
<p>事業スケジュール (活動期間は採択後から 2011 年 12 月 31 日まで)</p> <p>9 月～11 月上旬 チャリティイベント開催のための会議</p> <p>11 月 11 日～25 日 イベント作業</p> <p>11 月 23 日 イベント開催 (豊橋音祭りに参加)</p> <p>11 月下旬～ アンケート、交流会のための会議</p>

12月中旬～ アンケート作成開始
1月中旬 市役所訪問
2月18日 「ふるさと交流会@愛知大学」開催
2月中 アンケート回収、分析、まとめ
3月 アンケート結果を東三河五市の市役所、アンケートに回答してくれた方々、新聞社（毎日新聞、中日新聞、読売新聞）、愛知県被災者支援センターに送る

活動費収支報告

交通費：19,390円 コピー代：5,240円
雑費：8,435円 切手代：7,040円 総額 40,105円（3月5日時点）

活動の成果

- ・自主避難されている方々の現状、悩みを知ることができた。
- ・アンケート作成のノウハウを学ぶことができた。
- ・様々な団体の方々と連携し、活動の幅を広げることができた。
- ・自治体の支援の体制を知ることができた。

今後の展望

今回行ったアンケートや交流会で人によって、被災の規模、境遇、悩みが様々だと分かった。今後はさらに内容の濃いアンケートを実施し、それを基に同じ環境（単身、子供連れの親など）、同じ悩みを持つ方呼び交流会を中心に活動する。

学外の協力者の氏名と所属、肩書など

豊橋市企画部都心活性化課

桑山 正史さん

中木 真一さん

愛知県被災者支援センター

瀧川 裕康さん

大野 裕史さん

豊橋市役所

大橋 史明さん

豊橋市役所 福祉政策課

味岡 幸光さん

豊橋市役所、田原市役所、豊川市役所、蒲郡市役所、新城市役所

指導担当教員の氏名

- ・西堀喜久夫
- ・今里佳奈子

※ 活動費を使用できないものとしては、アルバイト代、飲食費、講演等への謝金などがあります。

活動目標

愛知大学たすけあい部

～2011年度活動報告～

愛知県内にいる自主避難者の支援。

被災していない方に被災者の現状を知ってもらう。

実践したもの



チャリティイベント

開催の目的

内容

義援金集め

募金活動

豊橋市民の関心を高めるため

モザイクアート制作

2011年11月23日 豊橋駅南口前広場にて開催された「ええじゃないか豊橋まつり」に参加



応援メッセージ
たくさんの方からあたたかいメッセージが届いた
(140通以上のメッセージが集まった)

募金
地図で金額を示した

募金額は23,543円になりました。

ご協力ありがとうございました。



イベントの様子



交流会開催の目的と 2/18交流会のプログラム

自主避難者の
実態把握

避難者同士の交流会
の場を設けるため

愛知県被災者支援センターに相談
センターと協賛という形で交流会を開催した

ふるさと交流会@あいち大学 プログラム

- 14時～ はじめのあいさつ
- メンバー・参加者・先生の自己紹介
 - 子供たちは遊びに行く
- アンケートの紹介・説明
- メンバー・参加者でお話
 - 子供たちが戻ってくる
- プレゼントを渡す
- メンバー・参加者でお話
- ビンゴゲーム(景品は暖房機器
支援センターから提供)
- おわりのあいさつ

交流会



アンケート

目的

交流会の
事前調査

自主避難者の
実態把握

流れ

アンケート作成し、添削を受け、東
三河5市にアンケート委託

1月28日
アンケート締め切り

2月 アンケート分析

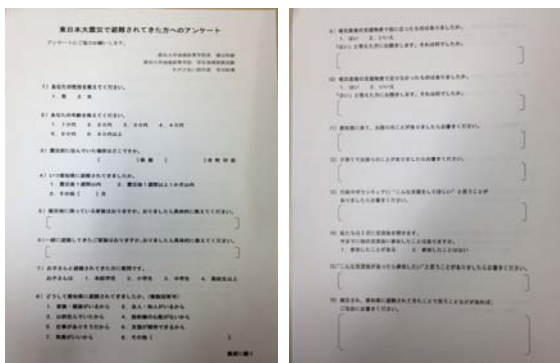
2月18日の交流会にて紹介・説明

3月以降
アンケート結果・交流会での
意見を行政等に報告

アンケート質問項目

- 震災前に住んでいた場所はどこか？
- 一緒に避難した家族はいるか？
- お子さんの年齢は？
- 避難理由
- 支援物資の中で役に立ったもの、足りなかったもの
- 交流会に参加したことがあるか？
- etc.....

送付したアンケート



アンケートと同封したお手紙と 交流会開催の案内



1月27日時点でこれだけ
集まりました！



全部で31通のアンケートが集まりました。ご協力ありがとうございました。

その他

- さまざまな説明会、意見交換会に参加
 - 目的: 知識を増やす
- 参加した説明会etc...
- 「県内に避難された被災者を支援する制度の説明会」
- 「子どもの教育を語る意見交換会」
- 「大切なのは“絆”支援の輪を広げよう!!」
- 豊橋市役所訪問
- 都心活性化課訪問
- 被災者支援センター訪問
- 「NPO/市民団体活動報告会」
- 「豊橋おいでんプロジェクト」で福島の方と交流
- 「原発事故賠償相談会」での託児

組織的な成果

- 一年目の学生間の協力・コネクションをつくれた。
- メンバーのいいところを見つけ、それを活かした。
- チームワークの大切さを学んだ。
- 連絡の大切さを学んだ。

成果を活かす

- 募金 → 交流会のプレゼントに充てる → 済
- パネル → 南三陸町に送る
- アンケート → 市役所、被災者支援センター、協力いただいた方に報告

来年度の活動予定

- たすけあい部は来年も継続して活動する予定
- 自主避難者の会の設立・運営のサポート
- 交流会をターゲットを変える等して開催

活動収支

- 交通費 19,390円
- 雑費 8,435円
- コピー代 5,240円
- 切手代 7,040円
- 合計 40,105円

- ※特別支出(募金より)
- 交流会でのプレゼント代 28,436円

- 交流会の資金は愛知県被災者支援センターから提供

顧問としてみた、たすけあい部の活動

私とたすけあい部のかかわりは、地域政策学部として地域貢献事業についての説明会を行った時にまでさかのぼる。私は、当日の会に参加していた教員として発言を求められ、その際地域貢献活動は地元だけでなく、東日本大震災の支援活動なども入るのではないかということ発言した。

当時、東日本大震災の支援活動をしようとしていた学生のグループには、3つの流れがあった。一つは、具体的に被災地にでかけボランティアをやろうとするグループ、2つめは現地には行かずに避難してきた被災者を支援しようとするグループ、3つ目は募金を集めて送ろうというグループである。結局、1と2のグループがたすけあい部になり、3のグループは大学祭で模擬店を出し、その収益を現地に送るという事業をやった。

たすけあい部は、事業報告に書かれているように現地でのボランティア活動はせず、避難してきた被災者に的を絞った活動を行うこととなった。具体的な活動は、募金活動、アンケート活動、避難者交流会である。夏休み明けから進められたが、いずれも手掛かりとてない中での活動であったから、さまざまな方々の情報提供や支援によって実現してきたといえる。

最初は、ともかく市役所の関係部局とコンタクトを取ろうということになり、福祉政策課と連絡はついたが教員がついてきてほしいとのことで、小生も同席した。そこで、避難者の状況などを聞くことができたが、避難者との連絡回路は個人情報との壁で教えてもらえなかった。しかし、市役所の避難者向けの取り組み情報を提供してもらうことは可能とのことで、アンケート調査や交流会の取り組みが可能であるということがわかったことは、大きな成果であった。

募金については、豊橋市の事業に関わる岩崎教授から都心活性課を紹介していただき、11月に「ええじゃないか豊橋祭」の会場にテントを出させてもらえることとなった。この取り組みは、市民のメッセージボードと募金であるが、目標が具体的であり、それぞれのメンバーが条件に合わせて業務を担い、見事に成功させた。

その次に、アンケートと被災者交流会の企画であったが、これは見えない避難者に向かって働きかける取り組みであるから、イメージと段取りを決めていくことが難しかったようである。そこで、豊橋、豊川、蒲郡、田原、新城の各市役所の協力を得て、市役所から被災者へのお知らせにアンケートのお願いと交流会への呼びかけをセットにして送らせていただいた。これは、学生が各市役所に出向き、趣旨を話し、協力をお願いして実現したものである。また、交流会は県支援センターから物品の提供、運営ノウハウの支援を受けることができた。アンケートは、60世帯に送り、31世帯が答えていただき、貴重な結果を得た。アンケート結果は、各市に提供し、被災者に送ってもらうこととなった。交流会は8家族が参加して、充実した心温まるものとなった。

顧問としてスタンス

顧問としての活動は、今里教授とともに進め、大事な問題は相談しながら学生に対応してきた。初めての取り組みであるから、実際には手探りで行ってきたが、学生が非常に主体的であったので、ほとんど何もしなかったというのが正直な実感である。ただ、顧問として心がけていたことは以下のようなことである。

- 1、学生の自主性を尊重する。学生から相談されたら乗り、学生が自分たちで解決するように、情報やノウハウを提供し、彼、彼女らが活動しやすいようにする。
- 2、学生が責任をとれないことや大学として対応しなくてはならないことについて、バックアップする。
- 3、失敗を恐れず、失敗も学習というスタンスで見守る。

顧問から見た成果の要因

たすけあい部は、大きな3つのプロジェクトを短期間に実行し、成果を上げてきたのであるが、いろいろ苦労があったと思われるが、よく乗り越えてきたと思う。近くから見ていてうまくいったのは何故かなと推測するに、1番の要因は、みんなで話し合い、それぞれの分担を決め、実行していったことではないかと思う。2番目は、いろいろな方が協力して下さり、プロジェクトが実現していったことである。3番目は、したいことがまずあり、そのための課題と行動する中から学習の必要を感じるというプロセスがよかったのではないかと思われる。

ともかく、一年前は高校生であった学生がここまで成長するものかということ、驚きをもって伴走してきたというのが実感である。

情けは、人の為ならず、ということわざがあるが、東日本大震災大震災の支援活動として行ってきたたすけあい部の活動を通して、一番よきものを手にしたのは、彼女、彼らではないかと思われる。人間的成長とともに、社会に出た時に役に立つ企画、計画、段取り、分担、会議、コミュニケーション、予算など、実際にやってみて身につくことを多少体験できたのではないか。

今後の学部の課題

初めての経験であり、今後経験を積んでこの貢献事業をさらに発展させていくことであるが、検討する課題を列挙しておきたい。

- 1、学生が会議をしたり、作業をするための恒常的なスペースの確保で苦勞した。今後確保されることになったが、正規ゼミ室などとの兼ね合いもあり、利用法などの検討が必要である。
- 2、顧問の活動について、何をするか、かかわり方についての一定の目安が必要である。
- 3、学外とのかかわりが増えるので、大学、学生、顧問の関係の一定のルールが必要である。

指導教員所感

今里 佳奈子

2012年2月18日、「愛知大学たすけあい部」は今年度最後のイベント～ふれあい交流会（東三河地域に避難していらっしゃる被災者の方達の交流会）～を終えた。地震や原発事故の際の緊迫した状況や不自由な避難生活などについて熱心にお話しされる避難者の方達。その方達に気持ちを寄り添わせながら話を聞き、ときには励ましの言葉をかける「助け合い部」の面々に、ミッションをもち地域に飛び込んでいくことで、一年生でもこれだけのことができるのだと一年間の進歩を実感した。

2011年6月1日の「相談会」から約9ヶ月。打ち合わせを重ね、いくつもの役所と交渉し協力を得、支援イベントやアンケートを実施した。「個人情報の壁」に苦労しながら、最後には交流会までこぎつけた。交流会が実現したことで避難者の方達も面識ができ、今後の東三河地域における支援の広がりも期待できそうだ。

連日にわたる話し合いや準備作業は大変だったと思う。それでも殆ど教員の手も借りずに若者らしいアイデアと工夫でこの事業をやり遂げたことは参加した学生諸君の一人一人の「地域貢献力」のみならず「人としての成長」にとって大きな意味を持ったことだろう。そしてこのような若者が社会の大多数を占めるようになれば、地域社会の姿は大きく変わっていくに違いない。「たすけあい部」のメンバーは、春休みも活動を続け、来年度はさらにバージョンアップして「地域貢献事業」に取り組むという。地域貢献事業に参加した他のグループのメンバーもそれぞれ活動を継続すると聞いている。「たすけあい部」の16人や地域貢献事業に参加した皆さんに拍手を送るとともに、来年、再来年と次に続く学生諸君の活躍に期待したい。

2011年度 地域貢献事業報告書

グループ名	「豊橋まちなか再生倶楽部 Team BRIDGE」
地域貢献事業名	「豊橋市中心市街地の賑わい創出の条件を探る―多文化共生の視点を中心として―」
○グループ代表者 (氏名)	杉本拓也 (学籍番号) 11R5284
○グループ副代表者 (氏名)	川上友里恵 (学籍番号) 11R5070
○呼びかけ人一覧	11R5004 長谷部雄也 (会計担当) 11R5234 鈴木孝幸 (広報担当)
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中心市街地の衰退の様子を探り、対策を考える。 ✓ 活性化の方法として、豊橋の特徴を活かし、ブラジル人を始め外国人と協力して活性化の取り組みができるかどうか可能性を探る。 ✓ 将来的には、中心市街地を賑やかにするため、サンバカーニバルの実施など様々な商店街活性化策を考え実行したい。
事業の内容 (誰が誰と何をどうするのか)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 豊橋市街地が直面する課題を知るため、豊橋市役所などに出向いてヒアリング調査。 ✓ 豊橋に住むブラジル人が日常生活で困っていることや、中心市街地の活性化などに関心を持っているかなどを知るために、豊橋市内の多文化共生サークルや国際交流協会などに出向いてヒアリング調査。 ✓ 多文化共生の視点から市街地の衰退抑制や活性化に取り組み、成果を上げている都市の市街地・商店街・お祭りに出向いて現地調査。(知立市、大垣市など)
事業の動機 (なぜ取り組むのか)	<p>多くのブラジル人が住む東三河地方で、日本人とブラジル人の間には常に壁が存在するのではないかと疑問に感じていた。そこで、日常的な交流を市街地再生の手段とし、多文化共生の視点から東三河の中心都市・豊橋市の中心市街地の活性化を考え、調査検討し、提言したいと考えた。</p>
事業の目標 (何を達成したいか)	<p>日本で一番元気な中心市街地とグローバル(グローバル&ローカル)な多文化共生都市の実現に向けた課題、条件などを明らかにしたい。その上で、来年度にはグローバルな多文化共生都市を中心市街地から目指すための実験イベントを空き店舗などを活用して取り組んでみたい。</p>
事業スケジュール (活動期間は採択後から 2011年 12月 31日まで)	<p>8月5日 知立団地自治祭り 見学</p> <p>8月6日 大垣水都祭り 見学</p> <p>8月11日 豊橋市役所都心活性課 中心市街地の取り組みについてヒアリング調査</p> <p>8月24日 豊橋市キックオフシンポジウム 見学</p> <p>8月28日 豊橋市キックオフセミナー 参加</p> <p>9月9日 豊橋ブラジル協会(ABT) 外国人側の多文化共生の取り組みについてヒアリング調査</p> <p>9月17日 豊橋市長と外国人児童の交流会 会場運営アシスタント</p> <p>9月20日 知立団地安全安心プロジェクトシンポジウム 参加</p> <p>10月13日 豊橋ブラジル協会(ABT) 教室外活動アシスタント</p> <p>11月13日 とよはしインターナショナルフェスティバル 見学</p>

11月17日 豊橋市役所多文化共生・国際課 行政の多文化共生の取り組みについてヒアリング調査
 12月20日 CSN豊橋 学習支援アシスタント
 12月22日 CSN豊橋 学習支援アシスタント
 1月22日 岩田校区どんど祭り ニサンガ（ブラジルのお守り）作成アシスタント
 2月5日 NPOあつみの集い 活動発表

活動費収支報告

支出費目 1. 資材費関連	6,245 円	
2. 交通費	20,330 円	
3. 知立、大垣の各祭りの屋台利用台	3,150 円	
4. 市役所ラウンジ使用料	850 円	
合計支出	30,575 円	(残金 9,425 円)

活動の成果

当初商店街や多文化共生の問題を深く理解していなかったもので、活動するにつれ多くの事実を学んだ。イベントにも積極的に参加し、いろんな分野の人たちとかかわった。これまで無縁だった商店街や外国人集住地区に行き、その場に住む雰囲気や活動している人たちの意見を聞くことができた。市役所やシンポジウムなどに行き、有識者の意見も直接聞くことが出来た。外国人が自治会に参加することの意義を理解していないことや、参加することの困難さ、豊橋に住む外国人の特徴など。その中でも特に子供たちと問題を一緒に考えることは重要だったと思う。実際にCSN豊橋という学生団体と子供たちとが協力して、団地内のゴミ問題を解決していることがわかった。また、外国人の子供達に関心を向けさせることで親たちにも関心を向けさせることができると思った。そのために、どんど祭り、国際ショナルフェスティバルのような交流イベントを通して、楽しみながら交流を深めることも問題解決の一つではないかと思った。

今後の展望

CSN や豊橋ブラジル協会と連携して、継続的に子供たちに学習支援をするボランティア活動を行う。また、文化交流を促すイベント企画、豊橋の外国人にとっておいしいと思える飲食店を外国語版パンフレットで紹介する広報活動や、学生割引ならぬ外国人割引導入の斡旋、外国人向けの買い物困難者バイブルなどの作成等々を、外国人市民にアンケート調査を行った上で今後実行したいと考えている。

学外の協力者の氏名と所属、肩書など

豊橋市役所多文化共生・国際課（鈴木課長、若子主査、豊田）、都心活性課（中神課長、桑山）
 豊橋ブラジル協会（田中理事長、大河）、CSN豊橋（伊藤）

指導担当教員の氏名

- ・鈴木誠
- ・中崎温子

※ 活動費を使用できないものとしては、アルバイト代、飲食費、講演等への謝金などがあります。

豊橋市中心市街地の賑わい創出の条件を探る

～多文化共生の視点を中心として～

チームBridge
杉本拓也
川上友理恵
鈴木孝幸
長谷部雄也

1

活動当初の目的

- 中心市街地の衰退の様子を探り、対策を考える。
- 豊橋の特徴を生かし、ブラジル人を始め外国人と協力して活性化の取り組みが出来るか可能性を探る。
- 将来的には、中心市街地を賑やかにするため、サンバカーニバルの実施など様々な商店街活性化策を考え、実行したい。

2

豊橋市に住む外国人の現状

- 豊橋に住む外国人は2万人近く。
- 国別に見みるとブラジル人が圧倒的に多い。

区分	平成17年	18年	19年	20年	21年
総数	18,069	18,577	19,327	20,428	19,715
ブラジル	11,449	12,130	12,399	12,885	11,931
フィリピン	1,547	1,150	1,367	1,758	1,910
韓国・朝鮮	2,031	1,974	1,937	1,906	1,805
中国	970	1,113	1,334	1,548	1,706
ペルー	962	986	999	1,016	959
インドネシア	183	223	215	215	250
ベトナム	78	104	146	168	190
タイ	70	62	65	71	117
マレーシア	44	54	75	85	91
ネパール	61	54	66	56	80
その他	674	727	724	720	676

資料：豊橋市市民課

3

Bridgeの活動状況①夏季休暇中

1	7月22日	浜松市多文化共生センター(キクヤマ)	(中崎)
2	8月4日	美濃加茂市役所地域振興課	長谷部
3	8月5日	知立団地自治会祭り(高笠原)	杉本、川上、長谷部、(中崎)
4	8月6日	大垣水都祭り	杉本、川上、長谷部、鈴木、(中崎)
5	8月11日	豊橋市役所多文化共生センター(中神、桑山)	杉本、川上、長谷部、鈴木、(鈴木)
6	8月24日	豊橋市キックオフシンポジウム(田中)	長谷部
7	8月28日	豊橋市キックオフセミナー	長谷部
8	9月9日	ABT豊橋ブラジル協会(大河)	杉本、川上、長谷部、鈴木

4

Bridgeの活動状況②秋学期～3月まで

9	9月17日	市長と外国人児童の交流会(田中、大河)	杉本、長谷部、(中崎)
10	9月20日	知立団地安心安全プロジェクトシンポジウム	杉本
11	10月13日	ABTのボランティアin交通児童公園(大河)	杉本、川上
12	10月21日	豊橋市中心市街地を探る	杉本、川上、長谷部、鈴木
13	10月22日	ワールド・コラボ・フェスタ	杉本、長谷部
14	11月13日	とよはしインターナショナルフェスティバル	長谷部、(中崎)
15	11月17日	豊橋市役所多文化共生・国際課(若子、豊田)	杉本、鈴木、長谷部、(中崎)
16	12月20日 12月22日	CSN豊橋(伊藤)	杉本、川上 杉本、鈴木
17	1月22日	岩田校区どんど祭り(大野、加藤、若子)	杉本、川上、長谷部、鈴木
18	2月5日	あつみNPOの集い(発表)	杉本、鈴木、長谷部、(中崎)
19	3月予定	知立団地自治会長へのヒアリング 豊田「多文化共生社会をめざして」シンポ	川上、(中崎) 杉本、長谷部、(中崎)

5

活動をしていくなかで・・・

ある疑問が起こる

多文化共生を考える＝中心市街地活性化？



6

中心市街地の状況

～豊橋市都心活性化課への訪問と

駅周辺の散策結果から～

- ・人通りが少なく商店街(広小路)が衰退してきている。
- ・豊橋ご当地グルメや農産物の商店街での販売活動が必要ではないか
- ・駅周辺の利用者は様々な年齢層であった。
- ・駅寄りの飲食店や娯楽施設は利用者が多かった。

7

豊橋市における多文化共生の課題と現状

1.2013年までの「多文化共生推進化(5カ年)計画」の目標値達成(課題)

- (1)外国人のまちづくりの積極的参加
- (2)地域の生活者として日本人住民との共同パートナーであること意識づくり
- (3)外国籍児童も将来の夢を持てる教育支援の強化、など

2.特にABT豊橋ブラジル協会の活動(現状)

- (1)協会の活動としては、ブラジル人向けのインターネットラジオの放送、サッカー教室、出張ブラジル領事館、など様々な活動をしている。
- (2)子供だけでなく大人にも日本語の授業や就労講義などの研修を行っている
- (3)ブラジル人で日本語が完全にわからない子供たちに日本語を教え、また小学校に行く前の事前教育の活動をしている、など

8

Bridgeの市民活動やイベントへの参加

①ABT豊橋ブラジル協会が行っている活動への参加

- 外国人児童と市長との交流会
- 虹の架け橋教室の体験
- 虹の架け橋教室課外活動への参加



9

②自治会が行う活動に参加

- 岩田校区どんどこ祭りでのミサンガづくり



10

③とよはしインターナショナルフェスティバル

- 主に各市民団体のブースや、ステージイベントがメイン。
- 国際交流に関わる団体のパネル展示があり、ABTや豊橋国際交流協会、愛大のCSNなどもパネル展示してあった。
- 日本語スピーチコンテストが行われ、地元の小中高大の学生が各部門に分かれスピーチをしていた。
- 芝生広場では、ワールドグルメと題し、ブラジル・ペルー・タイなどの各国料理が屋台形式でふるまわれた。
- 参加していた人は主に外国人が多かったが、日本人のお年寄り夫婦などもいた。
- たくさんの国の人が参加しており、子供づれの外国人が多かった。

11

④市の取り組みのヒアリング

- 浜松多文化共生センター

センターでの活動の中心は、行政ならではの中・長期的なスパンでの「多文化社会人材育成」「ソーシャルワーク研修」「ネットワーク構築」といったようなものだった。一定の予算を組み研修の場を提供し人材を育てていく方向が打ち出されていた。

- 豊橋市役所多文化共生国際課

- ・地区の交流の接着剤のような中間支援をおこなっている。
- ・外国人居住者のニーズを探ろうと、公募で選ばれた10名による外国人市民会議を開き、意見を聞いている。

12

⑤知立団地夏祭り

- 知立団地には日本人と外国人がおよそ半々の割合で住んでいる。(代表責任者の開会式の言葉より)
- ・25軒出していた出店のうち実に24軒が外国人によるものであった。(うち24軒はブラジル人で1軒はボリビア人)
- ・出店の内容は主にブラジル料理(ボリビア料理)で、メニューは日本語とポルトガル語両方で書かれていた。
- ・夏祭りのプログラムには盆踊り、サンバの両方が組み込まれており実に多文化的であった。(サンバは、実際の衣装で行われた)

13

⑥大垣水都祭り

- (1)市街地の中心で行われたお祭りを調査
- (2)水門川万灯流しに参加
- (3)事前調査でブラジルのお店でインタビュー

- ・大垣の商店街に出店したばかりのブラジル人の店主に、どのような人が来店するのか質問したら、語学を勉強したい人やブラジル人の人が多いといていた。また、9月にサンバカーニバルがあるといていた。
- ・いくつものお祭りを同時開催し、主要な車道を通行止めとし、歩行者天国とすることで市街地全体に賑わいがあつた。

14

⑦CSNとの交流などを通して

「共生」のための地域の取り組みの到達点

1. 学生団体の協力により、外国人住民との交流が活発化した
2. 外国籍児童との触れ合いの中でゴミ問題、花壇づくりに取り組んだ
3. 一般市民向けの広報活動が進んだ
4. 日本語支援の輪が広がった
5. ポルトガル語支援が広がった
6. イベントが活発化し参加の裾野が広がった
7. 不就学児童問題、進学率向上の取り組みが成果を上げてきている

15

BRIDGEの今後の活動

1.CSNとの連携

CSN:外国籍児童への教育支援、イベントの協力を中心とする学生団体

2.ABT豊橋ブラジル協会ボランティアスタップとしての活動

公立小中学校に通学していても授業についていけない外国人児童のために、放課後に一緒に遊んだり、宿題や勉強を教える。

16

3. 自治会のイベントへの参加

豊橋市や他市の自治会のイベントを中心に積極的に参加していく。

4. 多文化共生社会作りの理念の学習

例として、とよた日本語学習支援システムのシンポジウム等の参加。

5. 愛大生にbridgeの活動を広める・HPの活用

17



あつみNPOの集いでの報告の様子

18

「豊橋まちなか再生倶楽部」は、二人の発起人学生のそれぞれの思いを結合させてスタートした。発起人の一人は知立団地に住み、団地内の半分が南米系の人々にあって、団地に定着しているサンバカーニバルなどの賑やかなイベントを通じて、愛大のある豊橋市を活性化できないかと考えた。もう一人の発起人は、中心市街地の衰退を調査し活性化の対策にはどのようなものがあるかを探りたいという希望を持っていた。この二人が、同じ学習法の鈴木先生のクラスであったことから、ニューカマーの多くをかかえている豊橋市の現状を調査し、多文化共生が活性化の活力にならないかというテーマで共同で取り組むことになった。その橋渡し役が鈴木誠先生であり、多文化共生というキーワードから私の名前も浮上した。

現在4名の学生がメンバーであり、ポルトガル語履修の後発のメンバーを含めていずれも、「地域」の将来を考えたいというそれぞれの思いを持ち、活動の随所で活発かつ率直に意見交換しあって進めてきている。どんな活動をするにあたって、まず、学生自らが考え、メモを出し合い、議長（進行役）や記録係を必ず決めて取りかかる。その中に、時間のある限り、アドバイザーとして教員が入る。打ち合わせ回数や内容は、スライドの報告紙面に載せきれなかったが、夏休み前から始まり毎月2~3回実施している。実践活動後は、必ず、報告書が出る。この面でアドバイザーが指示したことは一度もない。そんな彼らが、その成長とともに次世代の地域を作っていく。半年の様子を見て、私自身、頼もしいと感じ始めている。

大学における地域貢献活動は、その言葉が示す通り、学際的な活動でなければならない。地域から学び、地域に還元していく。初年度は、学生は、浜松・美濃加茂・知立・大垣から学び、豊橋では関連数団体に何度か足を運んで、報告書(スライド)にあるようにその蓄積から多くを感得しえた。学生メンバーはいずれも、次年度以降も展望し、潰えることなく興味や関心を持続させている。その証左が、今後(3月)に予定している知立団地自治会長との面談や豊田での「多文化共生シンポジウム」への参加である。次年度も彼らの活動に大いに期待したい。

思えば、なんととはなし高度経済社会に移行してからの現代日本人は、自分のことのみに関心を持ち多忙を極める中で周囲や社会との接点が少なくなっている。今期の活動を通して、地域公共人材は少し手を差し伸べれば、ある意味手近のところには存在していることを実感した。必要などころでサポートしながら、実践の上に立って学生が教員と忌憚りの無い議論ができるところまで育ててほしいと願っている。また、私自身も脳細胞が化石化しないよう、学生に学びながら「活性化」を図らねばと考えている。

2011 年度 地域貢献事業報告書

グループ名 「ふれあいクラブ」
地域貢献事業名 「豊橋地域交流会」
<p>○グループ代表者 (氏名) 石原隆行 (学籍番号) 11r5283</p> <p>○グループ副代表者 (氏名) 山城愛梨 (学籍番号) 11r5147</p> <p>○呼びかけ人一覧</p> <p>11r5259 板倉沙樹 11r5223 榑原春香 11r5210 中村亮太 11r5233 宮原和也</p> <p>11r5103 稲垣志保 11r5064 杉本遼平 11r5049 則直知弥 11r5111 山影 駿</p> <p>11r5176 兼房晶士 11r5064 鈴木啓介 11r5135 藤好和樹 11r5044 河野彩香</p> <p>11r5193 田中湧也 11r5264 掘 将也 11r5086 杳名紘利 11r5007 富田一正</p> <p>11r5157 待場祐貴</p>
<p>事業の目的</p> <p>豊橋市で現在行われている地域活動について、地域住民にその現状を知ってもらい、住民自身に対して地域活動への参加を促すような風潮を創る足がかりをつくる。また、地域活動のノウハウを学び、来年以降の地域貢献活動につなげる。</p>
<p>事業の内容 (誰が誰と何をどうするのか)</p> <p>豊橋市における地域活動について、どのような組織が、いつ、どのような活動をしているのか調査し、参加状況や活動の様子をまとめ、地域住民に公表する(本年度は調査対象を豊橋市多米地区とする)。また、地域のイベントに参加するとともに、スタッフとなり、活動のノウハウを身につける。</p>
<p>事業の動機 (なぜ取り組むのか)</p> <p>当初、地域貢献活動として豊橋市の小学生を対象としたスポーツ大会を企画しようとしていた。しかし、そのためには自らイベントを行う前に地域の活動に参加し、その現状を知り、ノウハウを学ぶことが必要であると気づいた。豊橋市内では様々な組織が多様な活動を行っているが、いつ、どこで、どのような活動が行われているのか全体を把握している人はほとんどいない。住民間のつながりを形成するには、まず地域でどんな活動が行われているかを知り、情報を共有することが必要であろう。地域の人に自分の地域で行われている活動を知るとともに、参加してほしいと感じたからである。</p>
<p>事業の目標 (何を達成したいか)</p> <p>地域住民にヒヤリングを行い、豊橋市多米地区における地域活動の状況を集約する。その情報をもとに豊橋市多米地区のイベントカレンダーを作成し、住民に配布する。また、より多くの人に見てもらえるように、web 上でも公開する。</p> <p>地域活動のノウハウを身につける。</p>

事業スケジュール（活動期間は採択後から 2011 年 12 月 31 日まで）

事業期間中、活動団体にアポイントをとり、インタビューする。

参加したイベントは以下のとおりである。

10/15 豊橋まつり	11/12 ふるためあそびの学校
12/11 逃走中ファイナル	2/4 東海道クリーンナップ
2/26 明星の集い	3/24 多“米オヤジの会 ウィンターイベント

活動費収支報告

交通費 5,000円

文具代 840円

合計 5840円

活動の成果

- ・ イベントを企画する際のノウハウを学んだ
- ・ さまざまなボランティア・地域活動に協力し円滑にイベントを運営できた
- ・ 学生が地域活動に参加することにより、地域住民の活動の可能性が広がった
- ・ イベント主催者、参加者の現状を知ることができた
- ・ 地域のさまざまな地域活動団体を知り、人脈が広がった

今後の展望

学生が地域活動に参加することにより、地域住民の活動の幅が広がることが明らかとなった。
しかし、地域活動において若者の参加や意見などが足りないため、今後は以下の活動を行う。

- ・ 今後も多米地区の活動（ふるため、多”米オヤジの会）に参加していく。
- ・ 豊橋での人脈を生かして活動の幅を広げていく。
- ・ 昨年度とは違い、自らイベントを企画、運営、評価する。
- ・ これらの活動を通して、学生が地域活動に参加することにより、地域活動・地域住民にどのような影響を与えるのか検討する。

学外の協力者の氏名と所属、肩書など

村田裕志 氏（豊橋市役所・愛知大学OB） 大木基嗣 氏（多”米オヤジの会代表）

豊田一雄 氏（豊橋市議会議員・多米地区活動組織キーパーソン）

指導担当教員の氏名

駒木伸比古

※ 活動費を使用できないものとしては、アルバイト代、飲食費、講演等への謝金などがあります。

2011年度 学生地域貢献活動報告書

ふれあいクラブ

地域貢献活動を始めるにあたって

- ▶ インタビュー実施(8月)
 - ▶ 駄菓子屋とドッチボール大会を企画した愛知大学OBの村田さん
 - ▶ 多米地区の地域キーパーソンの豊田さん
- ↓
- ▶ 自分たちでイベントを行う前に地域の活動に参加し、その現状を知り、ノウハウを学ぶことが必要であると気づいた。
- ↓
- ▶ 豊橋まつり、ふるためあそびの学校、逃走中に参加。

豊橋まつり (10/15)

- ▶ 豊橋まつりとは・・・
 - ▶ 毎年10月に開催される東三河最大のイベント
- ▶ 参加して・・・
 - ▶ 多くの屋台がある。
 - ▶ 参加人数も多く活気がある。
 - ▶ お祭りだけでなく、総おどりなどのイベントに幅広い年齢層が参加している。
 - ▶ 総おどりの音楽が流れているので、屋台を見に来た人もにぎやかに楽しめる。



ふるためあそびの学校 (11/12)

- ▶ ふるためあそびの学校とは・・・
 - ▶ 愛知県豊橋市に唯一残る木造校舎の「ふるため」で開催。
 - ▶ 幅広い世代の交流の場として、多米の子供たちに昔ながらの遊びを教える。
- ▶ 企画段階から参加、当日も受付などを担当
- ▶ 参加して・・・
 - ▶ 普段できない遊びを体験していて楽しそうだった。
 - ▶ お年寄りや子供たちなど幅広い世代の人たちが交流。



逃走中ファイナル (12/11)

- ▶ 逃走中ファイナルとは・・・
 - ▶ のんほいパークで行われた多“米オヤジの会の冬のイベント
 - ▶ 多米地区の小学生を対象として大人がハンターとなりイベントを提供
- ▶ 企画段階から参加、当日はハンターとして参加
- ▶ 参加して・・・
 - ▶ 子供たちに楽しんでもらうことができた。
 - ▶ のんほいパークを活用したミッションを行った。

▶ 7



▶ 8

全体の反省

- ▶ 会議に関する反省
 - ▶ ・週に一回程度の定期的な会議が必要
 - ▶ ・書記が議事録をとる
- ▶ イベント企画・運営に関する反省
 - ▶ ・詳細な計画をたてる
 - ▶ ・イベントの詳細な役割分担
 - ▶ ・当日の流れをスタッフにしっかりと伝える
 - ▶ ・起こりうる事態を詳細に想定して配慮する
 - ▶ ・目的意識を持って活動に参加し、当日に活動の評価をする
- ▶ 全体を通して
 - ▶ ・活動評価表などをくばり全員の意見を提出する
 - ▶ ・会議、提出書類などの最終確認を行う
- ▶ これらのことを来年度につなげる。

▶ 9

来年度の活動

- ▶ 1年間の活動を通し、企画・運営するノウハウを学んだ。



- ▶ 多米地区の活動に参加
 - ▶ 今年度参加できなかったイベントにも企画から参加予定
- ▶ 二川リンケージの活動に参加
 - ▶ クリーンナップ、アカデミアに参加
- ▶ 自分たちが企画したイベントの開催
 - ▶ 学生が地域活動に参加することによって、地域のボランティアに若者の意見が取り入れられ、また、学生に地域の活動に興味を持ってもらうことができると考えている。

▶ 10

ふれあいクラブ 会計報告

	A	B	C	D
1	ふれあいクラブ会計報告書			
2	日付	種別	詳細	支出
3	9/25	交通費	雲知大駅前-新倉橋 往復(1名)	¥260
4			駅前-市役所前 往復(1名)	¥300
5	10/15	交通費	雲知大駅前-新倉橋 往復(1名)	¥260
6	10/28	交通費	雲知大駅前-新倉橋 往復(1名)	¥260
7			駅前-赤岩口 往復(1名)	¥300
8	11/6	交通費	駅前-赤岩口 往復(2名)	¥600
9	11/12	交通費	駅前-赤岩口 往復(2名)	¥600
10	12/11	交通費	雲知大駅前-新倉橋 往復(1名)	¥260
11			倉橋-二川 往復(3名)	¥1,140
12	2/4	交通費	雲知大駅前-新倉橋 往復(1名)	¥260
13			倉橋-二川 往復(2名)	¥760
14	2/24	文具代		¥840
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27			合計	¥5,840

▶ 11

指導教員所感

駒木伸比古

ふれあいクラブの学生たちにとって、今年度の地域貢献活動は今までにない人生経験ができたのではないかと考えています。ふれあいクラブは、地域政策学部 2011 年学習法6クラスが主体となっています。結成のきっかけは「地域の子どもたちと楽しく遊びたい」ということであり、「地域貢献活動」としての目的や計画があいまいなものでした。そのため、7月の「事業企画発表会」では先生方からの確かなコメントやアドバイスをいただき、希望4グループのうち、唯一不採択のグループとなってしまいました。しかし、ここで学生たちはめげることなく、採択に向けて模索を始めました。先生方に地域で活動経験のある OB や地域のキーパーソンを紹介いただき、「地域で活動するというとは何か」、「地域で活動するためにはどんなことが必要か」といったことを考えてきました。こうして学生たちが行きついた結論の一つは、「まずは地域でどんな活動があるか、参加して自分たちで体験してみる」ということだったと思います。こうして修正した企画書を提出し、9月には採択が承認されました。その後は、「ふるためあそびの学校」、「多”米オヤジの会秋部会イベント」に、「参加者」としてだけでなく「スタッフ」としても参加することで、地域の方々がどんな目的で活動をしているか、そして地域への愛着をどのように持っているか、を自ら感じる事ができたのではないかと考えています。また、こうして活動に参加することで、地域で活動されている様々な方々とのつながりを持てたことは、学生たちにとって今後の大きな財産になると思います。

ふれあいクラブは今年度だけでなく、来年度も活動を予定していると聞きました。来年度学生たちは、まず自分たちが地域で活動することによって地域がどう変わっていくかを理論的に説明できるようになって欲しいと思います。さらに新入生、すなわち後輩に「地域で活動する」ということはどういうことか、自分たちの経験をもとに指導していくことを望んでいます。

また、今年度の活動を通じて、学生たちだけでなく、私個人も様々な勉強の機会をいただきました。学生たちと活動することで、地域の方々が地域政策学部にとどれほど期待をよせていただいているかを、肌で感じる事ができました。今回の経験を通じて、スタッフの一人として、学生たちとともに「地域政策学部」を作っていきたいと改めて感じました。

最後になりましたが、豊田一雄様、大木基嗣様をはじめとする多”米オヤジの会のメンバーの皆様や自治会の皆様をはじめ、豊橋市多米地区の方々には、学生の活動経験の場を提供していただきました。豊橋市役所(愛知大学 OB)の村田裕志様には、採択に向けて再チャレンジを行う際に、学生たちに相談に乗っていただきました。愛知大学三遠南信地域連携センター研究員(愛知大学 OB)の鈴木伴季様には、これまでの愛知大学の学生たちによる地域活動の成果・経験をレクチャーしていただきました。そのほか、地域での活動を通じて、様々な方にお世話になるとともに、学生たちに励ましの言葉をいただきました。また、愛知大学地域政策学部の戸田敏行先生には多米地区をご紹介いただくとともに、岩崎正弥先生、湯川治敏先生には、学生指導の際に相談に乗っていただきました。その他、地域政策学部の先生方には、学生たちに様々な有益なアドバイスをいただきました。以上、全ての方々のお名前を挙げる事ができませんが、厚くお礼申し上げます。

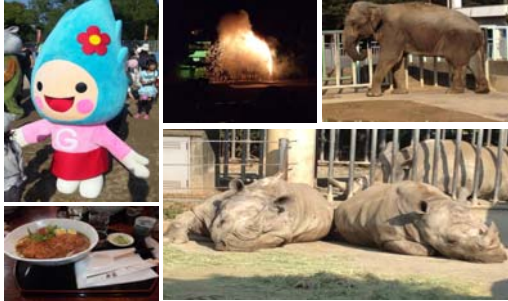
2011 年度 地域貢献事業報告書

グループ名 「ええじゃないか豊橋愛大キャラバン」
地域貢献事業名 「ええじゃないか豊橋推進計画の支援・評価キャラバン活動」
グループ代表者 (氏名) 山本 浩平 (学籍番号) 11R5123
グループ副代表者 (氏名) 岩本 尚也 (学籍番号) 11R5038
事業の目的 ええじゃないか豊橋推進計画とは、豊橋市の魅力や自慢を積極的に地域の内外に発信するため、以下の3つのシティプロモーション戦略を実践するものである。プロモーションの核として設定されているのは、「手筒花火」「のんほいパーク」「路面電車」「とよはし食文化」の4つである。本事業は、これらのシティプロモーション戦略の具体的な諸事業に対して、若者=学生という視点から、支援し、また評価を行い、今後の「ええじゃないか豊橋」の推進の一助となることを目的としている。
呼びかけ人一覧 (申請段階で確定している者の中で、代表、副代表以外の学生氏名、学籍番号) 11R5279 川後 見沙季 11R5083 稲垣 美穂 11R5013 大浪 愛
事業の内容 (誰が誰と何をどうするのか) 「ええじゃないか豊橋推進計画」に基づいて、さまざまなプロモーション企画が提示されており、その企画が若者=学生に訴えるものかどうかなどを学生自身の活動として実施し、企画者やそれを実践する行政の人々とのコミュニケーションの中で支援するとともに、意見を整理し、評価を公表していく。ええじゃないか豊橋推進会議で認められたシティプロモーション事業に参画し、その事業が豊橋市のプロモーションに効果があったかを、観察・調査(撮影やアンケート調査)して、企画者や豊橋市役所の人々と検討会を行う。
事業の動機 (なぜ取り組むのか) 地域政策学部入学者には、地元出身者が多いが、地元を知らない者も多い。このような活動を通じて、地元の自慢できるところやもっと売り出していくべきところなどを観察し、地元の発展に寄与したい。また、プロモーションの理論と実際の企画や活動を体験したいと考えた。
事業の目標 (何を達成したいか) ・「ええじゃないか豊橋推進計画」を通じて、シティプロモーションとは何かを学ぶ。 ・具体的なシティプロモーション事業への参画を通じて、豊橋市と地域の文化を深く学ぶ。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域政策への貢献のあり方を考え、積極的に行政(市)や関係機関に意見を発信する能力を養う。 ・ 豊橋市に、大学生以外の多くの仲間をつくる。
<p>事業スケジュール (活動期間は採択後から 2011 年 12 月 31 日まで)</p> <p>8 月 参画する「ええじゃないか豊橋推進計画」のシティプロモーションの決定</p> <p>9 月 ケーブルテレビ・ティーズの企画で「のんほいパークの映像発信事業」に参加し評価</p> <p>10 月 10 月第 1 土・日曜に開催される羽田八幡宮のまつり(手筒花火)のチェック 毎年 10 月第 3 土・日曜日に開催される豊橋まつりのチェック</p> <p>11 月 カレーうどんをはじめ豊橋の食文化のチェック</p> <p>12 月 路面電車(おでん車)などチェック</p> <p>1 月 報告書の作成</p> <p>2 月 報告会参加</p>
<p>必要費用 (主に、何にいくら使用するか。尚、助成金を使用できないものもあります)</p> <p>旅費交通費:20,000 円・・・シティプロモーション事業の現場までの交通費など</p> <p>消 耗 品:10,000 円・・・アンケート調査の印刷代や文具など</p> <p>会 議 費:10,000 円・・・市職員や関係者との交流会費用</p> <p>印 刷 費:10,000 円・・・活動報告書の作成</p>
<p>学外の協力者の氏名と所属、肩書など</p> <p>ええじゃないか豊橋推進会議(佐藤元英ヤマサ社長)</p> <p>豊橋市企画部 シティプロモーション推進室</p>
<p>指導担当教員の氏名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新井野洋一 ・ 尼崎光洋

※ 活動費を使用できないものとしては、アルバイト代、飲食費、講演等への謝金などがあります。

愛大キャラバン 活動内容報告会



活動目的・内容

《目的》

若者=学生という視点から、支援し、また評価を行い、今後の「ええじゃないか豊橋」の推進の一助となることを目的としている。

《内容》

活動前に立てた目標に向けて活動する。

活動場所

- ・豊橋祭り
- ・手筒花火
- ・のんぼいパーク
- ・豊橋カレーうどん

豊橋カレーうどん

2011/9/28、2012/1/26

視察場所

みかわの郷

視察日時

2011/9/28(水)11:00~13:20

2012/1/26(木)13:30~14:00

活動内容

豊橋カレーうどんを学習法のメンバーと食べに行き、簡単なアンケートをとった。



豊橋祭り 2011/10/16

視察場所

豊橋公園

視察日時

2011年10月16日(土)

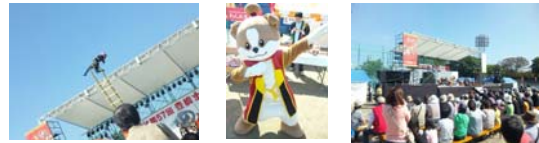
10:00~11:00 東海地方の特産を並べた屋台、B級グルメの会場

14:00~15:00 ゆるキャラ

17:00~17:30 DOEE公演

活動内容

報告書の作成とそれを豊橋市役所シティプロモーション推進室への提出



DOEE公演

2011年豊橋祭りで、豊橋を全国にPRするために結成されたパフォーマンスユニット



10/16

祭りフィナーレの視察

手筒花火 2011/11/25

視察場所

豊橋公園吉田城付近

視察日時

2011/11/25(金)

17:40~18:00 手筒花火視察

活動内容

観光用手筒花火の意見をまとめた。よかったところ、悪かったところを話し合い、調べた。



のんほいパーク(動物園) 2012/1/26

視察場所

豊橋総合動植物公園

視察日時

2012/1/26(木)
9:00~11:00 各自視察

活動内容

2手に分かれて、動物園がより活性化していくためには
どのような問題点があるか2つの目線から動物園を視察した。



のんほいパーク(自然史博物館・植物園)

2011/1/26

視察場所

豊橋総合動植物公園

視察日時

2012/1/26(木)
9:00~11:00 各自視察

活動内容

SEA REX鑑賞、エドモントサウルス展示室・古生代・中生代展示
室視察、温室視察



愛大キャラバン参加メンバー

代表

山本 浩平

副代表

岩本 尚也

会計

今井 雄木

写真

原田 雄木

メンバー

福田 美穂

川後 みさき

大波 愛



担当教員 新井野洋一
尼崎 光洋

指導教員所感

尼崎光洋

2011年度の地域政策学部の学生が主体となって行った地域貢献活動の一つ、「ええじゃないか豊橋愛大キャラバン隊」のサポート役を行った。本活動の主体は学生であるため、教員である私の主だった活動は、豊橋市市役所シティプロモーション推進室へ同行、豊橋まつりの視察、学生が学外と連絡をする際のEメールの添削であった。学生が積極的に活動を行っていたため、あまりサポート役としての使命を果たせなかったと思われる。しかしながら、私としては、この活動を通じて、学生の成長を見守ることができたことは大変貴重な経験であり、また、今後の学生が行う地域貢献活動に対するサポートのあり方を検討する好機となったと考えられる。今後も、地域貢献活動のサポート役として、微力ながら活動したいと思う。

2011年4月1日、愛知大学に西日本では最初の地域政策学部が誕生した。本書は、この地域政策学部の記念すべき第1期生が取り組んだ地域貢献活動の内容を取りまとめたものである。本事業は、地域政策学部開設前から本学教職員によって準備されてきた事業である。冒頭の渡辺学部長の挨拶のとおり、本学部の基本的な教育理念は「地域を見つめ、地域を生かす」である。この教育理念に基づいて企画されたのが本事業である。

ただ、「本事業を具体的にどのように展開していくのか」「学生たちは地域貢献活動に際して何を準備すべきか」「正課との連続性や関係性をどう考えるか」等々、本事業の扱い方をめぐり学部教職員間で共通の認識を得て取り組んだわけではない。その積極的な理由の一つは、従来、地域を対象に教育研究に取り組んできた教職員が、地域貢献活動をめぐする方法や学生としての備えを学生たちに事前に示すのではなく、学生自らが試行錯誤を繰り返し、自らの力で地域を見つめ、地域を生かす方法を、本事業を通じて探ってほしいと考えたからである。学生たちは、私たちの期待に十分応えてくれたように思われる。

学生たちが地域貢献活動を企画し取り組めた要因として、実に多彩な学外者の方々の協力が得られたことを挙げなければならない。そのことは、担当教員の所感から察することができる。これは、本学が豊橋市を中心とする愛知県東三河地方を中心に広く三遠南信地域に根を張った大学として歩んできた証しであり、本学部への期待の証しともいえよう。

地域の市民団体、教育界、産業界、自治体関係者など多様な機関や個人の理解と協力が得られ、学生たちは伸び伸びと初期の目標に向けて努力し、様々な助言を得て目標や方法に微調整を加えながら、地域貢献活動を繰り返してきた。しかし、このように書くと「とんでもない！やり残したことがたくさんある！」という反論が学生たちから寄せられそうである。学生たちは熱心に自ら掲げたテーマを追求し、仲間と共に地域貢献活動に取り組んだが、決して満足していないようでもある。その思いを胸に、来年度、さらに企画力や実践力、地域とのネットワーク力に磨きをかけて、地域貢献活動に取り組んでいきたいと考えている学生たちが多いようである。

本学部には、2012年4月より、地域政策学センターが正式に立ち上がる。その中の教育部門が、新年度から本事業の準備を進め、新入生並びに新年度は2年生となる現在の学生たちに、地域貢献活動に取り組むための助成金募集を行う予定である。今年以上に多くの学生グループが誕生し、あるいはグループ規模を拡大し、本事業に意欲的に取り組んでくれることを期待したい。意欲ある学生たちのために、新年度には活動助成金の給付以外にも、学生用の常設型作業スペースの確保や学内の指導体制、学外の協力支援体制等々の充実を図らなければならないと私たちも実感している。

本学部の学生たちが、地域貢献活動を通じ、地域に役立ち、地域を誰もが安心して暮らせる社会へと転換していく一員、すなわち地域的公共人材として育ってくれるよう強く期待し、ともに歩んでいきたいと考えている。